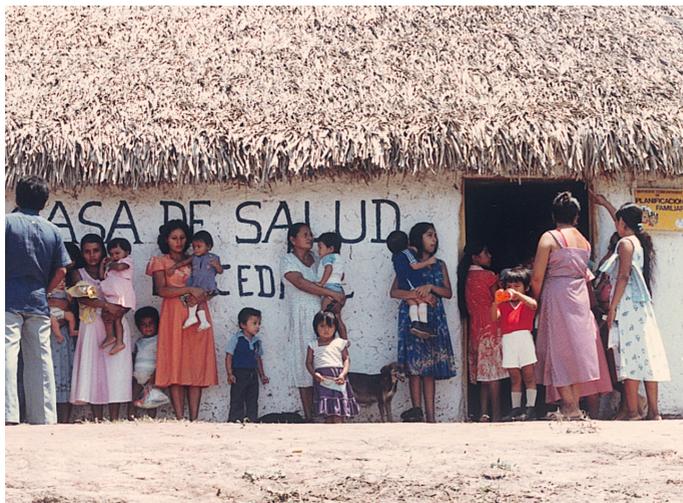


〔カサ デ サルー—メキシコの村の女たち—〕  
文部省選定

マヤ文明を築いた原住民の文化と、スペイン文化が混合して、独特の明るさと色彩を持つメキシコ。熱帯と温帯にわたるこの国は、大河に沿って密林が広がり、都市部と点在する農村では、その生活が大きく異なっている。特に農村医療に関しては、無医村がほとんどである。私たち日本人にとってまだ遠い国のひとつであるこの国の人々の暮らしを訪ねた。映画は、ユカタン半島の西、ベラクルス州の農村で、村人たちが自分たちの健康を守る「カサ・デ・サルー」（健康の家）をつくる意欲的な活動を記録した。



茶褐色に澱んだ水を流す大河が、いくつもの支流を持つ。その川筋に沿って、あるいは奥深く、置き忘れられたように貧しい村々が点在している。

そうした村々に、ベラクルス大学医学部は、若い学生たちを次々に送り込んでボランティア活動を推進していた。フランシスコ・デ・ガライ村もそのひとつ。

はじめは、学生たちの活動に無関心だったこの村で、アンヘラという女性が、まず彼らの熱意に動かされた。「自分たちの健康は、自分たちの手で守ろう」と、仲間の女性たちに呼び掛けて、学生たちのボランティアの医療活動を受け入れる小さなカサ・デ・サルーを自分たちの手で造ろうと立ち上がった。

13人の女たちは、資金づくり、敷地探し、建築材料集めを始めた。男たちもそれを見て手伝い始め、遂に手作りの白い土壁の家、カサ・デ・サルーを村の片隅に造り上げた。

記録  
16ミリ  
カラー／42分  
英・西・中・日本語版

■企画  
(財)家族計画国際協力財団

スタッフ

■製作  
村山英治  
■脚本・演出  
山下秀雄  
■撮影  
北川英雄  
■音楽  
杉田一夫  
■解説  
富田浩太郎